

令和2年度法務省委託事業

ハンセン病問題に関する

「親と子のシンポジウム」

報 告 書

令和2年度法務省委託事業「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」
実施完了報告

1 実施概要

- (1) テーマ：「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」
- (2) 日 時：令和3年2月23日（火・祝）午後1時30分～午後4時
- (3) 形 式：オンライン配信
パピヨン24・ガスホールをメイン会場として配信
※ 大島愛生園（香川県高松市）をサテライト会場に同時中継
- (4) 対象者：一般市民（事前申込制／先着順） ※ 参加費：無料
- (5) 主 催：法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、福岡法務局、福岡県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後 援：中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、福岡県、福岡県教育委員会、福岡県市長会、福岡県町村会、西日本新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同）
- (7) 内 容：
 - 開会～主催者挨拶
 - シンポジウム
 - 第1部 基調講演「ハンセン病問題について考える」
 - ・坂元茂樹（公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長）
 - 第2部 人権啓発ビデオの上映「ハンセン病問題を知る」
 - 第3部 パネルディスカッション
 - 報告者
 - ・森 和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長・大島青松園入所者自治会会長）
 - ・豎山 勲（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会事務局長）
 - ・黄 光 男（ハンセン病家族訴訟原告団副団長）
 - ・潮谷義子（社会福祉法人慈愛園理事長／前熊本県知事）
 - コーディネーター
 - ・内田博文（全国人権擁護委員連合会会長）

2 目的

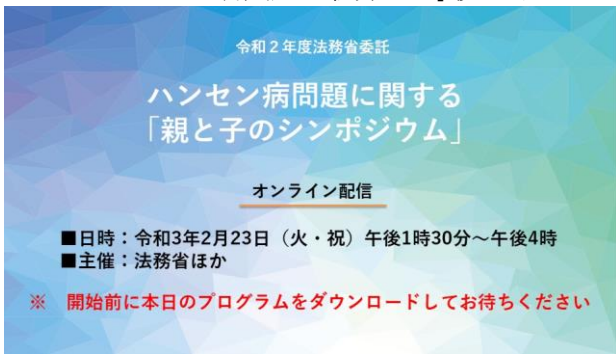
今なお社会に根強く残っているハンセン病元患者やその家族に対する偏見・差別を解消するためには、ハンセン病問題に関する正しい知識を持ち、ハンセン病元患者やその家族がおかれている現実を理解し、それを次世代へも継承していくことが必要である。

偏見・差別の解消に向けて、当事者の方々の思い、ハンセン病問題を深く関わってこられた方々の声を聴き、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。

3 参加者数等（YouTube の分析情報による）

視聴回数：1, 307回
最大同時視聴者数：498人
ユニーク視聴者数：814人
（事前申込者582名）

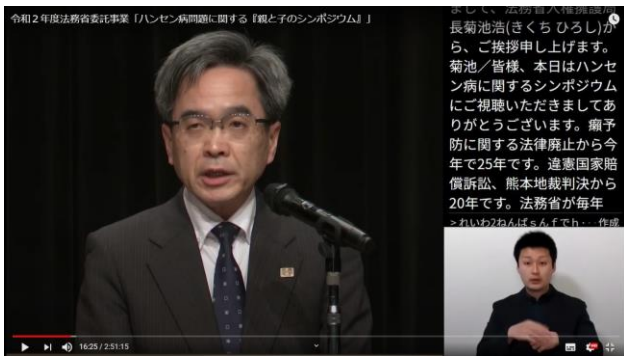
4 「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」配信の様子



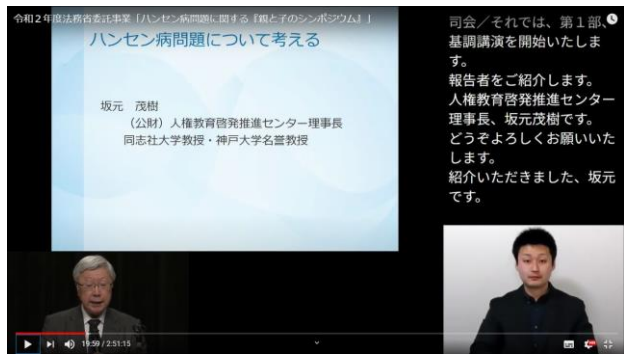
ライブ配信前：案内1



ライブ配信前：案内2



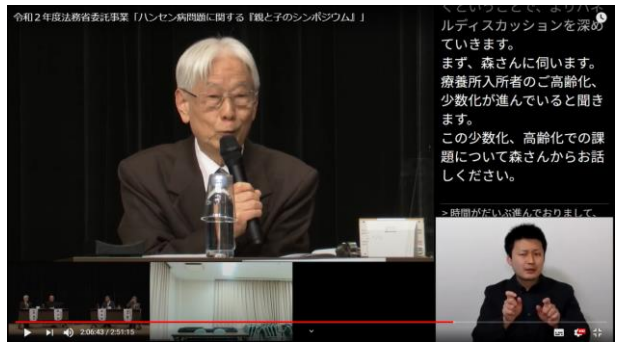
主催者挨拶： 法務省人権擁護局長 菊池浩



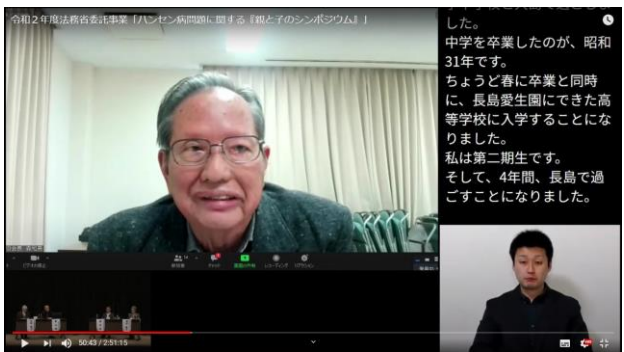
基調講演： 坂元茂樹（公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長）



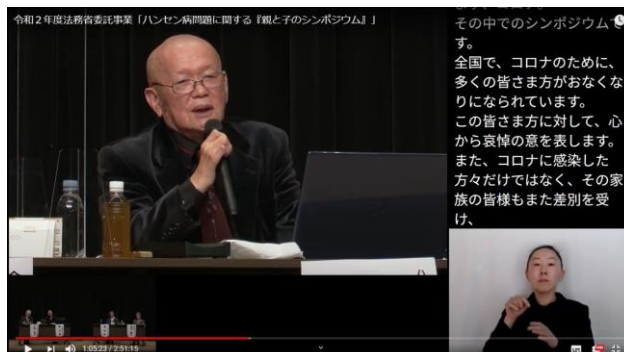
ハンセン病啓発ビデオの上映



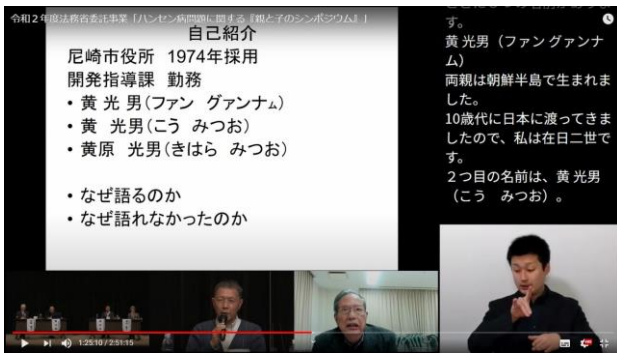
パネルディスカッション コーディネーター： 内田博文（全国人権擁護委員連合会会長）



パネルディスカッション パネリスト①： 森和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長・大島青松園入所者自治会会長）



パネルディスカッション パネリスト②： 堅山勲（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会事務局長）



パネルディスカッション パネリスト③：
黄光男（ハンセン病家族訴訟原告団副団長）



パネルディスカッション パネリスト④：
潮谷義子（社会福祉法人慈愛園理事長／前熊本県知事）

[参考資料]

- ・当日配布資料（ダウンロード用プログラム）
 - ・アンケート集計結果
 - ・採録記事イメージ
- 読売新聞 令和3月18日 掲載
 読売中高生新聞 令和3月19日 掲載
 読売KODOMO新聞 令和3月18日 掲載
 毎日小学生新聞 令和3月18日 掲載
 朝日学生新聞 令和3月18日 掲載